

ベトナムの看護資格を有し日本の高齢者施設で働く介護人材の 看護専門職キャリア支援に関する研究

角濱春美¹⁾ *、工藤英明¹⁾、鹿内彩子¹⁾、三好美紀¹⁾、小林昭子¹⁾、尾崎麻理¹⁾ 久保宣子²⁾

1) 青森県立保健大学、2) 八戸学院大学

Key Words ①ベトナム ②外国人介護人材 ③キャリア開発、④看護専門職、看護学生

I. はじめに

深刻化する人手不足の対応として政府は外国人の受け入れを拡充している。しかし、急速な高齢化で全世界的に介護人材が不足する中、円安で経済的優位性が低い日本は、人材獲得が難しくなっている。

日本で就労する介護人材にはベトナムの看護資格を有する者も多い。「介護の仕事はイメージと全く違った」「医療行為ができず驚いた」「本国に戻っても初めからキャリアをやり直さなければならない」と語られ、キャリアパスの分断が大きな問題と指摘されている。

専門職キャリアとは、自分の専門的知識や技能を高め成長することであり、国を超えた専門職としての理想や誇り、発展の道筋がある。看護職としてのキャリアを支援して分断を防ぎ、より高度な能力が身につけられれば、日本で働く意義を見出すことができると考えた。外国人介護人材への支援は、資格取得、生活環境、日本語習得に関するものであり、個人の専門職としての背景を尊重したキャリア形成支援の報告は見当たらない。

II. 目的

日本で働くベトナムの看護資格を持つ人材の専門職キャリア支援の成果を実証することを最終目的とし、本年度は、ナムディン看護大学や青森県等との連携のもとに二ーズ調査を行い、支援の方向性を探索することを目標とした。

III. 研究方法 (または「研究の経過」等)

1. 研究1:来日を希望する看護学生の調査

1) 目的: 日本での就労を希望する看護大学生が描く、看護の仕事のイメージ、将来の夢を明らかにし、支援のあり方について検討する。

2) 対象: ナムディン看護大学が連携している日本の特定非営利活動法人全国盲老人福祉施設連絡協議会(以下、全盲老連)のサマースクールに訪れた学生17名。

3) 調査方法: ナムディン看護大学及び全盲老連の許可を得て、研究依頼や記述方法をベトナム語で説明した上で、ベトナム語に翻訳した無記名記述式質問紙によりデータ収集した。調査内容は、①看護大学に進学した理由、②日本で働きたいと思った理由と目的、③将来の夢、④日本でどんな仕事をしたいと思っているか、とした。

4) 分析方法: 日本語に翻訳し、事例として個人の文脈を損なわないように分析を行った。

2. 研究2: キャリア発展成功事例の調査

1) 目的: ベトナムで看護大学を修了した者で、日本で自らのキャリアを発展させた事例か

*連絡先: 〒030-8505 青森市浜館間瀬 58-1 E-mail: h_kadohama@ms.auhw.ac.jp

ら、キャリア開発に必要な支援を検討する。

2) 対象：日本でのキャリアアップに成功した、または予定している者7名。

調査方法：オンラインを用いた半構造的面接によるインタビュー調査を行った。調査内容は①ベトナムで看護大学に入学した理由、②来日した経緯と目的、③活用した制度、④来日後のキャリアの道筋、⑤今後のキャリアプラン、⑥キャリア発展のために求めることとした。

4) 分析方法：事例検討を行った後、共通する事項について内容分析を行った。

3. 研究3：青森県外国介護人材の調査

1) 目的：介護施設で働くベトナム出身介護人材のキャリアニーズを明らかにする

2) 対象：青森県内の高齢者施設で働くベトナム出身介護人材及び外国人の雇用や調整に関わる施設担当者

3) 調査方法：就労施設に許可を得て、面接調査を行う。

4) 調査内容：ベトナム出身の介護人材には、①来日に活用した制度の種類、②学歴、③取得している資格、④専門資格取得機関の種類、⑤来日までの経緯、⑥キャリアプラン、⑦介護の資格取得や語学以外で学びたいことを尋ねた。施設担当者には、①受け入れ側の感じる課題、②行っているキャリア支援について尋ねた。

5) 分析方法：個人が特定されない範囲で事例個人の文脈を損なわないように分析を行った。

6) 倫理的配慮 青森県立保健大学研究倫理審査委員会の承認を得た（承認番号 24039）。

IV. 結果

1. 研究1

サマースクールに訪れた、新2年生4名、新3年生13名に対して調査を行った。

看護師を目指した理由は、看護が好きで、家族や人々の世話をしたいという想いや、社会に必要とされ、安定した職業であることであった。また、海外や日本で働くことが出来るという理由で看護師を目指し、大学選択時点で、日本との繋がりがあることを理由に受験していた。

人々の役に立ち、信頼され、専門能力の高い優秀な看護師として活躍する未来を描いていた。更に、日本の看護師資格や在留資格を取得し、看護師として日本で就業するキャリアを描いていた。看護師を目指した想いを礎に、ベトナムと日本で看護師として働き暮らす未来を描いていた。

日本は高齢化が進み人材を必要としているため働く場が沢山あり、働くためのサポートや高い給料が得られるという理由で日本での就業を希望していた。収入を得るためという経済面は理由のごく一部であり、先進的な技術を持つ日本で勉強や研究をし、沢山の経験から成長したいという想いを抱き、日本での就業を自身のキャリア発展の一環として位置づけていた。

2. 研究2

7名から同意が得られた。男性1名、女性6名、年齢は27～33歳であった。全員が日本語能力はJLPTN1を取得しており、大学院に進学した者が2名、資格取得は、看護師が3名、保健師が1名、介護福祉士が3名、認知症ケア専門士が1名、医療通訳が1名であった（重複あり）。

キャリア開発に影響する因子は、免許互換性、来日資格・制度の変遷、日本語能力の獲得、日本への曝露、国際性志向、主体的成長志向、看護へのコミットメント、方向性を導く人・機会の存在、日本とベトナムの懸け橋、これまでの経験を活かした次のキャリアの探索、生活したい場の選択、であった。キャリア開発に望む支援は、学ぶための経済的支援、自分で探索できる情報提供、学びあえるコミュニティ、外国人に合った学習ツール、受験申請書類の単純化・統一、試

験受験資格、であった。

3. 研究3

ベトナムで介護施設を開設した先進的取り組み事例では、介護人材の育成を目的として現地で施設を開設し、現地の看護師と連携をとり人材育成を行っていた。文化的差異による患者や職員への対応に困難があるとのことであった。

受け入れ側の現場担当者からは、①文化や言葉の意味することが伝わりにくい、②認知症高齢者への関りが困難、②日本語能力向上のための具体的サポートが必要、③栄養面・健康面・文化的差異のサポートが重要、④技能実習生は3年で帰国するためキャリア開発よりもサイクル化している、⑤帰国した後のつながりの維持、⑥夜勤ができる評価基準の検討が必要、であった。

ベトナム介護人材は、ベトナムで看護師課程（短期大学）を修了した者が5名、機械工学系の大学出身者が1名であった。キャリア開発意向としては、日本の介護士資格を有する者が1名、取得を明確に目指している者が1名であり、これ以外は在留資格年限まで働いた後、ベトナムに帰る意向を示していた。今の経験を活かして介護の仕事がしたいが、ベトナムで介護は仕事とはみなされていないこと、ベトナムの看護資格を維持するための研修受講のために一時帰国しなければならないこと、ベトナムで看護師の給与が低いことが問題視されていた。

V. 考察

来日を希望する看護大学学生は来日を「学び成長できる場」ととらえ、看護師資格の取得や大学院への進学を夢を抱いていた。これらの若者が望むキャリアを得て、キャリアアップの道筋を望むように進めることは、優秀でやる気ある人材が日本に一定期間止まり活躍することになる。人材確保という側面からも個別的なキャリア支援を行うことが重要であり、学習環境の整備や、進学に関する情報を入手出来るような体制作りが必要である。

日本でのキャリアアップには、二国間の免許制度の違いや、看護や介護の仕事に対するイメージや給与の違い、日本語能力の獲得がバリアになっていた。しかし、そのバリアを乗り越えてキャリア開発を達成する人材は、看護へのコミットメントが強く、自己学習志向、情報リテラシーが高いことが特徴的であり、適切な情報を届けることが有効である。

少子高齢化・核家族化が急速に進んでいるベトナムにおいては、高齢者のケアに関わる問題が保健医療福祉上の大きな課題になる。この分野における理念・技術・人材の移転が円滑にできるような取り組み、介護資格の国際性への取り組みが必要である。これは、日本で介護の仕事を経験してベトナムに帰った者の経験を活かしたキャリア継続においても重要な取り組みである。

VII. 発表

誌上発表 ○Harumi Kadohama, Mai Thi Lan Anh, Miki Miyoshi, Saiko Shikanai: Comparison of Competencies and Educational Contents Required for a Bachelor's Degree in Nursing between Japan and Vietnam - Consideration of Collaboration in the Field of Nursing between Nam Dinh University of Nursing and Aomori University of Health and Welfare, Aomori Journal of Health and Welfare, 7(1), 1-11, 2025.

学会発表 ○小林昭子, 角濱春美, 工藤英明, 鹿内彩子, 三好美紀, 久保宣子: 日本での就労を希望するベトナム看護大学生が抱く看護職キャリアを踏まえたキャリアサポート, 2024 年青森県保健医療福祉研究発表会 日本ヒューマンケア科学学会第17回学術集会合同集会抄録集, 44, 2024. (優秀ポスター賞1位)